

| 特記仕様書 | | | 章 | 項 目 | | 章 | 項 目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | |
|---|---------|-----|-----------------------|---------------------|---|--------------|--|---|----|-----|----------|---------|--|--|---------|--|--|---------|--|
| 1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。 | | | 8 第Ⅷ章 耐震改修工事 | 2.4 あと施工アンカー | せん断耐力： 〇 図示 ・ アンカーの種類： ・ 図示 〇 カプセル型 ・ アンカー筋の径： 〇 図示 ・ アンカー筋の埋込深さ： 〇 図示 ・ アンカー筋の種類： ・ 図示 ※異形棒鋼 〇 SS400 アンカー筋の新設壁内への定着長さ： ・ 図示 ・ あと施工アンカーの性能確認試験： ・ 行う ・ 行わない 〇 JCAAの製品認証取得品を用いること） セメントの種類： ※普通ポルトランドセメント ・混合セメントA種 ・高炉セメント ・フライアッシュセメント フェロニッケルスラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・B 鋼スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 電気炉酸化スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 混和剤： ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・ 混和材： ・フライアッシュ ・高炉スラグ微粉末 ・膨張剤 ・ モルタルの圧縮強度： ・ 図示 ・18N/mm2 ・既存構造体 ____ N/mm2以上 モルタルのフロー値： ・ 図示 ・180mm未満 ・180mm以上240mm未満 ・240mm以上 型枠の材料等： ・下表による 〇 図示（意匠図に特記） ・ | 8 第Ⅷ章 耐震改修工事 | 3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 | 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ（軽量コンクリートの場合）： ・ 図示 ・40mm ・50mm ・60mm ・ 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ： ・ 図示 ・ 壁の配筋： ・ 図示 ・ 開口部の補強筋： ・ 図示 ・ 抜取試験の方法： ※超音波探傷試験 ・引張試験 ・ | | | | | | | | | | | |
| 2. 本特記仕様書における採用事項 ①. 項目欄は番号等に 〇 印を附したものを適用する。 ②. 項目欄に 〇 印を附し特記事項欄に 〇 印を附していない場合は標準仕様書による。 ③. 特記事項は 〇 印を附したものを適用する。但し 〇 印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。 〇 印と※ 〇 印を附した場合は共に適用する。 | | | | 2.5 コンクリートの材料及び調合 | 4.2 機械式継手 | | 4. 鉄筋の機械式継手及び溶接継手 機械式継手の種類： ・ 図示 ・ 機械式継手の工法及び品質の確認方法等： ・ 図示 ・施工計画による品質計画 溶接継手の工法： ・ 図示 ・ 溶接継手の工法及び品質の確認方法等： ・ 図示 ・施工計画による品質計画 不良継手部の修正方法： ・ 図示 ・施工計画による品質計画 | | | | | | | | | | | | |
| 3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。 〇 国土交通省大臣官房長官営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版 〇 国土交通省大臣官房長官営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版 ・ 国土交通省大臣官房長官営繕部監修 建築物解体工事共通仕様書 平成31年版 | | | | 2.6 構造体用モルタルの材料及び調合 | 4.3 溶接継手 | | 7. コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め 外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： ・25mm ・20mm ・15mm ・ 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用： ・適用する ・適用しない | | | | | | | | | | | | |
| 4. その他事項 ・ 各項目欄の番号（例：1.4 〇〇〇）は標準仕様書の番号（章番号を除く）に照合する ・ 各項目欄の番号（例：表〇. 〇. 〇、及び図〇. 〇. 〇）は標準仕様書の各表、及び図番号に該当する項目とする ・ 各項目欄の番号（例：●公〇章***、公***、●公***）は公共建築工事標準仕様書の各項目に相当する ・ 各項目欄の番号（例：1.* 〇〇〇）は標準仕様書の番号（章番号を除く）に該当しない項目とする | | | | 2.7 型枠の材料 | 9.1 一般事項 | | 9. 軽量コンクリート 土に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： 〇 図示 ・ ____】 水に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： 〇 図示 ・ ____】 軽量コンクリート種類： ・下表による ・ 図示 ・ <table><tr><th>施工部位</th><th>種類</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・ 屋上防水押え</td><td>・1種 ・2種</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・1種 ・2種</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・1種 ・2種</td><td></td></tr></table> 所要気乾単位容積重量： ・ 図示 ・ ____ kN/m3 所要スランプ： ※21cm ・18cm ・ | 施工部位 | 種類 | 備 考 | ・ 屋上防水押え | ・1種 ・2種 | | | ・1種 ・2種 | | | ・1種 ・2種 | |
| 施工部位 | 種類 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 屋上防水押え | ・1種 ・2種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・1種 ・2種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・1種 ・2種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 章 | | | 2.8 鋼 材 | 10.2 材料及び調合 | 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 第Ⅷ章 耐震改修工事 | | | 2.9 高力ボルト | 11.1 一般事項 | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2.10 溶接材料 | 11.2 無筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2.11 スタッド | 11.3 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2.12 柱底均しモルタル及びグラウト材 | 11.4 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2.13 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等 | 11.5 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2.14 鋼材の材料試験等 | 11.6 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2.15 基礎工事に用いる材料 | 11.7 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 3.4 継手及び定着 | 11.8 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 | 11.9 鉄筋コンクリート | 11. 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 12.4 穿 孔 | 12. 12. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 12.7 施工確認試験 | 12. 12. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 13.10 仮 組 | 13. 13. 鉄骨工作 仮組の実施： 〇 行わない ・ 行う | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 14.2 摩擦面の性能及び処理 | 14. 14. 高力ボルト接合 すべり係数試験の実施： 〇 行わない ・ 行う 試験の方法、試験片の摩擦面の状態： ・ 図示 ・ ボルト長さがねじの呼びの5倍をJIS型ボルトのナット回転法の回転量： ・120° ・ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 15.3 溶接作業技能資格者 | 15. 15. 溶接接合 溶接技能者の技量付加試験： 〇 行わない ・ 行う ※AW検定合格者以外が完全溶込溶接を行う場合に実施する | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 15.4 溶接の準備 | 15. 15. 溶接接合 溶接技能者の技量付加試験： 〇 行わない ・ 行う ※AW検定合格者以外が完全溶込溶接を行う場合に実施する | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 15.7 溶接施工 | 15. 15. 溶接接合 溶接技能者の技量付加試験： 〇 行わない ・ 行う ※AW検定合格者以外が完全溶込溶接を行う場合に実施する | | | | | | | | | | | | | | |